

装解除、ソ連軍の指揮下に入る。黒河よりソ連へ、九月ごろであった。

汽車で二日くらい乗った思いがするが、炭鉱の街、人口約二万くらいというチェレンホーボに到着。収容所に入り三年間の苦労が始まる。仕事は炭坑作業や鉄道の移動作業、建築、水道の穴掘り等いろいろの作業があった。私は医務室勤務であった。発疹チフスで二十一年の一月より二月に六百人の戦友が死んでいった。

二十二年五月、いよいよ日本に帰ることができた。

帰国後は農業でナシを作り生計を立てて生活した。現在、妻と子供と暮らしています。

抑留記

岐阜県 丸山 清公

生年月日 大正十四（一九二五）年九月四日

本籍 岐阜県恵那市長島町正家

軍歴

昭和十九（一九四四）年十二月一日

浜松陸軍第七航空教育隊入隊

同年十二月

中支派遣軍に転属、同月中支に出発

昭和二十年三月

一期の終了後、隼九八六七部隊（五七飛行場大隊配属移動、湘潭飛行場に勤務）

同年六月

大隊移動により南満州新立屯飛行場に向かい七月到着勤務するも一カ月で終戦となる

抑留歴

昭和二十年八月十九日

奉天（瀋陽）に集結中、新民駅にてソ連軍に出遭い収容される

同年九月十九日

奉天に移され、三日後、奉天北陵より第四九大隊（作業大隊）として黒河に一カ月かかり到着する

同年十一月三日

ブラゴエシチェンスクに渡りソ連の列車に乗りチタ、クラスノヤルスク經由カピヨウルまで行き、トラックと徒歩にてギイドラ經由トランスールに到着、収容所に入る（金の発掘炭鉱）。一週間後別の作業隊に加わりギイドラに向かう。ここでは伐採作業で昭和二十一年六月まで収容され作業する

昭和二十一年六月末

病人としてカピヨウルまで下がり、ここよりダモイ列車としてシベリア鉄道でポセット湾まで下がりソ連船に乗せられ北朝鮮の清津港

に上陸。鉄道にて古茂山の収容所に入るときは同年八月でした。間もなく清津に作業があるとのことで希望して参加する。

作業の内容は日本製のびらん性のガス弾を海に放棄する作業

昭和二十一年十月末

清津より帰り文化部付となる

同年十二月

帰国命令で興南港より初めて日本船に乗り、昭和二十二年一月、佐世保港に上陸、復員する

職歴

昭和二十二年 復員後農業に従事

昭和二十五年

岐阜県山林課所属の治山事業監督職員として従事する。以後、中津川山林事業所と変更になり同所勤務

昭和三十年七月

恵那市役所林務課勤務職員

昭和五十九年三月

恵那市役所建設部長を最後に退職する

現在

恵那市社会福祉協議会会長、恵那市シルバー人材センター理事長、財団法人全抑協岐阜県支部理事

戦後も既に六十年近く経過し、抑留の事実さえだんだんと風化して人々の記憶の中から消えてゆく現状に深い憂慮を抱く我々は、全抑協本部の方針に従い、昨年、当市文化センターにおいて「語り継ぐ会」を多くの市民の方の参集を得て盛大に開催できたことは誇りに思っており、このような全抑協の行事には積極的に参加し、運動の原動力になるように決意を新たにしております。

抑留記

岐阜県 田中十郎

生年月日 大正十(一九二一)年四月一日

本籍 岐阜県恵那市大井町

軍歴

昭和十九(一九四四)年三月

応召、満州第八六八部隊

昭和二十年五月 歩兵第二五八連隊へ転属

昭和二十年八月 終戦、終戦時陸軍上等兵

抑留歴

昭和二十年八月末 シベリアへ

収容所転々と変わる

コムソモリスクで採炭と鉄道の修理作業を行っ

た

犠牲者が多く出たのは最初の越冬の時であった
病気になっても栄養状態が悪く、なかなか治ら